

飯塚能の会 福岡公演

能楽はユネスコ第一回世界無形文化遺産に登録されております



花筐 木月孚行 写真 前島写真店

●能 花筐筐之伝 木月晶子 ●舞囃子 船弁慶 山階彌右衛門 ●狂言 清水 野村万禄
観世流御宗家御令弟

令和4年12月17日(土) 午後1時始
(開場12時半)

大濠公園能楽堂

福岡市中央区大濠公園 1-5

* 事前講座開催 詳しくは裏面をご覧ください。

●入 場 料 全自由席 ¥6,000(当日 ¥7,000) 学生券(中・高校生・大学生) ¥2,000
特別20歳代券 ¥3,000 (受付にて年齢を確認できるものを御提示下さい。)

●お問合せ先 ☎ 070-5276-7534 ・ ☎ 0948-22-2421(木月)
大濠公園能楽堂 ☎ 092-715-2155 他出演能楽師
チケットぴあ・セブン-イレブン (Pコード: 514-710)

●主 催 飯塚能の会
●後 援 西日本新聞社・朝日新聞社・読売新聞西部本社・毎日新聞社

～お客様へのお願い～ 新型コロナウイルス感染防止対策の為入場時に検温、マスク着用等をお願い申し上げます。
館内でのお食事をご遠慮ください。上演中の写真撮影・録音録画は固くお断り致します。
やむを得ない事情により出演者等が変更になる場合がございます。

飯塚能の会 福岡公演

番組
解説
仕舞

嵐山 木月章行
屋島 森本哲郎
井筒 坂口信男
遊柳 多利島之
善行 木月宣行

地謡
多利島法子
久保誠一郎
角幸二郎
山口剛一郎

船弁慶

山階彌右衛門

大鼓原 岡一之太鼓吉谷
小鼓飯田清一苗森田光次

地謡
木月章行 木月宣行
今村嘉太郎 今村嘉伸

狂言

清

水 太郎冠者 野村万禄

主人 吉住

講

後見 杉山俊広

休憩 二十分

花

帝 森本英太郎
侍女 前田和子
照日ノ前 木月晶子

花筐

官人 坂苗 融
使者 小林 克都
大鼓原 岡一之
小鼓飯田清一
苗森田光次

與昇 坂内 良功
與昇 程内 豊

後見 多利島利之 山口剛一郎
地謡
木月章行 今村一夫
今村嘉太郎 坂口信男
久保誠一郎 山階彌右衛門
木月宣行 角幸二郎

附祝言

(終了予定 四時頃)

【あらすじ】

舞雛子・船弁慶(ふなべんけい)
海上に現われた平知盛の怨霊は荒波にもま
れながら源義経に薙刀で襲いかかるが弁慶の
祈りの力に負けて退散する。

狂言・清水(しみず)

茶の湯の会の準備のため主人は太郎冠者に
秘蔵の手桶を持たせて野中の清水へ水汲みに
行かせる。しぶしぶ承知した太郎冠者だった
が、又水汲みに行かされるのは嫌なので清水
に鬼が出たと嘘をつき水を汲まずに戻って来
る。不審に思った主人が清水へ確かめに行く
と言うので太郎冠者は先回りをして鬼の面をつ
けて主人を脅かしたあとついでに太郎冠者を
最前にするように言い聞かせる。本当に鬼が
出たと信じた主人は家に戻り太郎冠者にその
様子を話すが：

能・花筐 筐之伝(はながたみ かたみのでん)

皇位継承が決まった男大迹皇子は寵愛して
いた照日ノ前に手紙と形見の花籠を使者に届
けさせて越前の味真野から上洛する。残され
た照日ノ前は一人悲しみに暮れ里に帰る。
即位し大和の玉穂の宮を皇居と定めた継体天
皇は官人たちを従えて紅葉狩りに出かける。
そこに照日ノ前と花籠を持った侍女が現れる。
帝への思いが募り狂女となって故郷を離れ都
へ行く途中の照日ノ前は帝の行列の前へ飛び
出す。官人に制止され侍女の持つ花籠を打ち
落とされると照日ノ前はこれは君の形見だと
敬い帝に逢えないことを嘆き泣き伏す。
帝の命令により照日ノ前は漢の武帝と李夫人
の情愛を描いた曲舞を舞うと帝は花籠を確認
し照日ノ前を伴い都へ帰る。
小書により花籠に花を盛って登場しそれを持
ち(クルイ)を舞う。

事前講座

11月23日(祝・水) 午後3時半頃

無料 大濠公園能楽堂

花筐を中心にお話し致します。観嘩會・靖謳会の合同会(素人発表会)終了後で
ございますのでお早めにお出ましいただければ合同会をご覧頂けます。